

# 釜石市民生児童委員協議会

(平成 26 年 11 月)

## 1. はじめに

釜石市は、岩手県の沿岸南部、三陸復興国立公園の中央部に位置し、世界三大漁場の一つ、北西太平洋漁場の一角をなす三陸漁場があります。

当市は、製鉄と漁業で栄え、数十年前は人口が9万人余でしたが、新日本製鉄所本社の合理化や漁業規模の縮小等で年々人口が減少し、高齢化率も34%を超え、限界集落や「買い物難民」の問題を抱える地区も出てきています。

東日本大震災による死者・行方不明者は1,141人に上り、また、人口減少は現在も続いており、平成26年9月末現在の人口は3万6,570人です。

釜石市民生児童委員協議会（以下：民児協）の組織

8地区 139名（定数147名）

津波被害地区	とうに 唐丹（10名）	みなみかまいし 南釜石（16名）	ひがしかまいし 東釜石（22名）	うのすまい 鵜住居（17名）
津波無被害地区	なかづま 中妻（19名）	こさの 小佐野（24名）	かつし 甲子（18名）	くりはし 栗橋（13名）

※被災後に定数を調整した地区（南釜石、鵜住居、中妻、小佐野、甲子）

## 2. 現状紹介

10月29日、震災後初めての全体研修会を開催することができました。当市では、津波被害により多くの公共施設が使用不能となったことや、復旧したホテルについても大ホール等が復興工事関係者の長期の宿泊部屋として使用されるなどして、研修会の会場が確保できなかつたため、これまで全体研修会は開催できませんでした。現在は新たな宿泊施設の建設が進んでおり、ホテルの利用制限も少しずつ緩和されるものと期待していますが、市民ホールの完成は2～3年先となり、まだまだ十分な研修環境とはいえません。

全体研修会では、来年4月に施行される生活困窮者自立支援法に民生委員・児童委員としてどのように対応していくべきか、県社協職員からご講演いただきました。

講演後には昼食交流会を行ない、参加した委員同士で震災当時の活動や現況について語り合い、有意義な情報交換を行なうことができました。



約100名の委員が一堂に会しました。



複雑な制度をわかりやすく説明いただきました。



有意義な懇談会となりました。

### 3. ～全国の委員へのメッセージ～

震災後、全国の民生委員・児童委員の皆様から、さまざまなご支援をいただいていることにあらためて感謝申し上げます。

震災後にはじめて開催することができた全体研修会をきっかけに、これまで以上に地域福祉活動に取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。